



100周年



# 「風雲児」にエール 落慶法要に首相補佐官

## 曹洞宗見性院

曹洞宗見性院(橋本英樹住職、埼玉真熊谷市)は3月21日、本堂改修の落慶法要を営んだ。元防衛相の中谷元首相補佐官をはじめ、同寺にゆかりの僧侶約30人が参列。般若心経を唱える簡素な形式で、家族的な雰囲気で行われた。

改修は屋根の大規模な修理と塗装、ステンドグラスの設置などで、総額約5千万円を費やした。

見性院は2012(平成24)年に檀家制度を廃止。地域住民に開かれたお寺を目指し、宗教・宗派や国籍を問わずに葬儀や法要を営む。墓地の分譲や樹木葬、納骨堂の運営から遺体搬

送、仏具や墓石の販売・加工まで自ら手掛ける。僧侶や寺務員にさまざまな役割を与え、葬祭関連企業のような形態で新しい寺院像を模索している。



中谷補佐官(左)と橋本住職(中央)。右は埼玉12区選出の森田俊和衆院議員=3月21日、埼玉県熊谷市の見性院



④改修した本堂  
⑤新設されたステンドグラス



橋本住職は「不公平感が募る社会で、より多くの人が親しまれるお寺をつくるには、既存の体制を壊すことが必要だった」と改革の動機を話し、「法事や葬儀の充実はもとより、地域コミュニティの活性化につながる施設を建設する」と抱負を語った。将来はシンガポールに別院を建立する計画もあるという。

中谷補佐官は「仏教界の風雲児と呼ばれる橋本住職には、新しい仏門のあり方を探求してほしい」とエールを送った。